

北海道観光の現況

2023



HOKKAIDO LOVE!





(北海道観光PRキャラクター キュンちゃん)

目次

■ 北海道観光の現況

1 観光入込客数（実人数）	
（1）全体推移	・・・ 1
（2）日帰り客・宿泊客の推移	・・・ 2
2 宿泊客延べ数	
（1）全体推移	・・・ 2
（2）圏域別の状況	・・・ 3
（3）圏域別宿泊延べ人数の伸び率の推移	・・・ 3
（4）月別宿泊客延べ数	・・・ 5
（5）宿泊数の割合	・・・ 5
3 交通機関別の状況	
（1）交通機関別来道者の推移	・・・ 6
（2）発着別の来道者の状況	・・・ 7
4 観光消費額単価	
（1）全体推移	・・・ 8
（2）費目別消費額の推移	・・・ 8
5 観光総消費額	
（1）全体推移	・・・ 9
（2）経済波及効果（生産誘発額）	・・・ 9
（3）雇用誘発効果	・・・ 10

6 満足度

- (1) 全体推移 . . . 10
- (2) 項目別の満足度 . . . 11
- (3) コロナ禍での観光旅行 . . . 12

7 リピーターの状況

- (1) 全体推移 . . . 13
- (2) 再来訪（リピート）意向 . . . 13

8 その他

- (1) 修学旅行の受入状況 . . . 14
- (2) 宿泊業の状況 . . . 14
- (3) 旅行業の状況 . . . 15
- (4) 貸切バスの状況 . . . 15
- (5) 道内 DMO の状況 . . . 16
- (6) 国際会議の開催状況 . . . 16
- (7) 全国通訳案内士（北海道登録分）資格取得者数の状況 . . . 17
- (8) 北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者数の状況 . . . 17

■ 参考資料

- ・ 主な観光資源（自然公園、ラムサール条約登録湿地、世界遺産、北海道遺産）
- ・ 航空路線網図
- ・ 航空路線別輸送実績
- ・ 令和5年度地域政策推進事業・観光関連分
- ・ 令和5年度観光局の施策体系

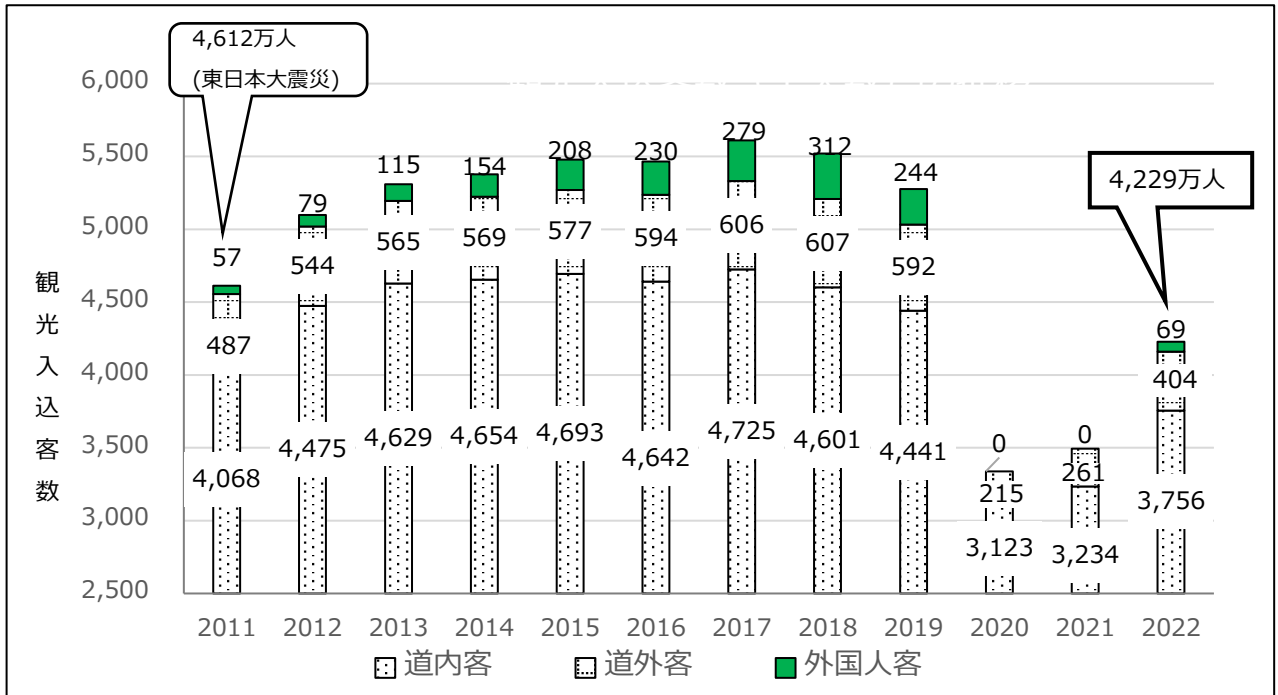
1 観光入込客数（実人数）

(1) 全体推移

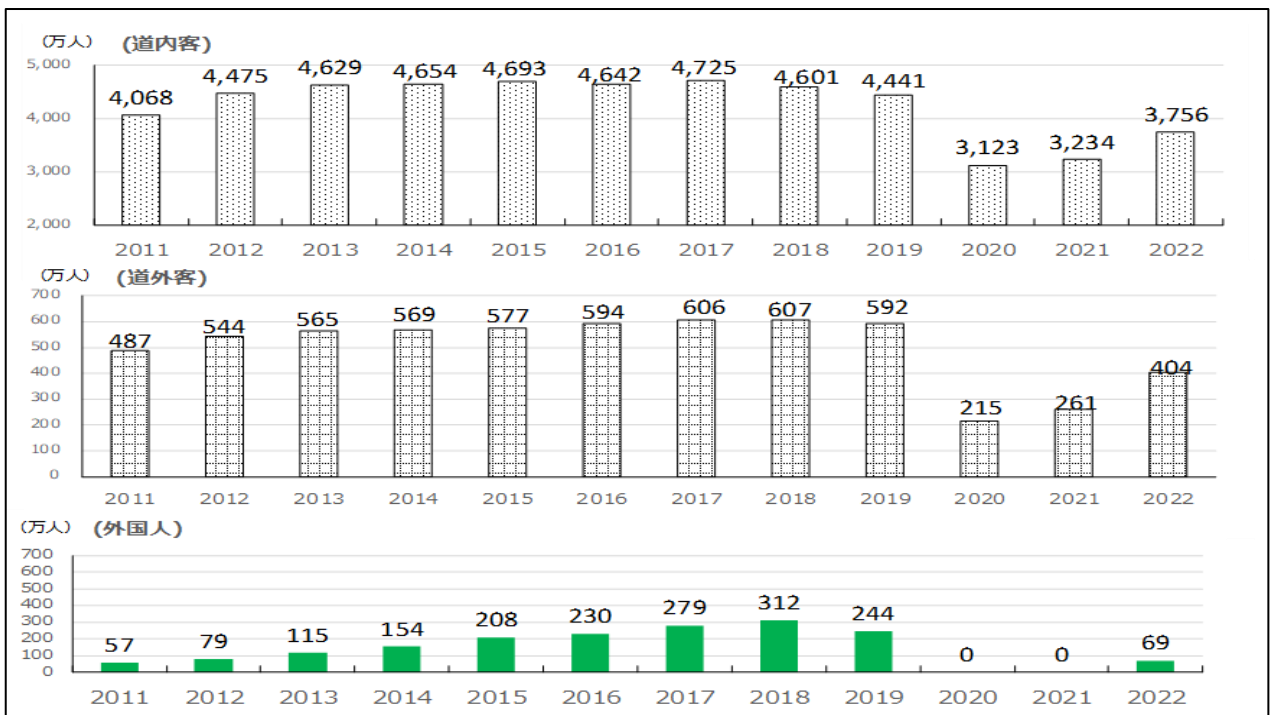
北海道の観光入込客数（実人数）は、東日本大震災が発生した2011年3月以降、微増から横ばいで推移していたが、2019年度末に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、観光入込客数は大きく減少した。2022年度は全体で4,229万人（前年比21.0%増）となり、回復基調にあるほか、感染拡大前の2019年度の概ね8割程度まで回復している。

2022年度の道内客は3,756万人（前年度比16.1%増）、道外客は404万人（前年度比54.8%増）となった。外国人については、国の水際対策が終了し海外からの本道への直行便の再開などにより69万人となっている。

図表 1-1 観光入込客数（実人数）の推移



図表 1-2 観光客別（道内客・道外客・外国人）の推移

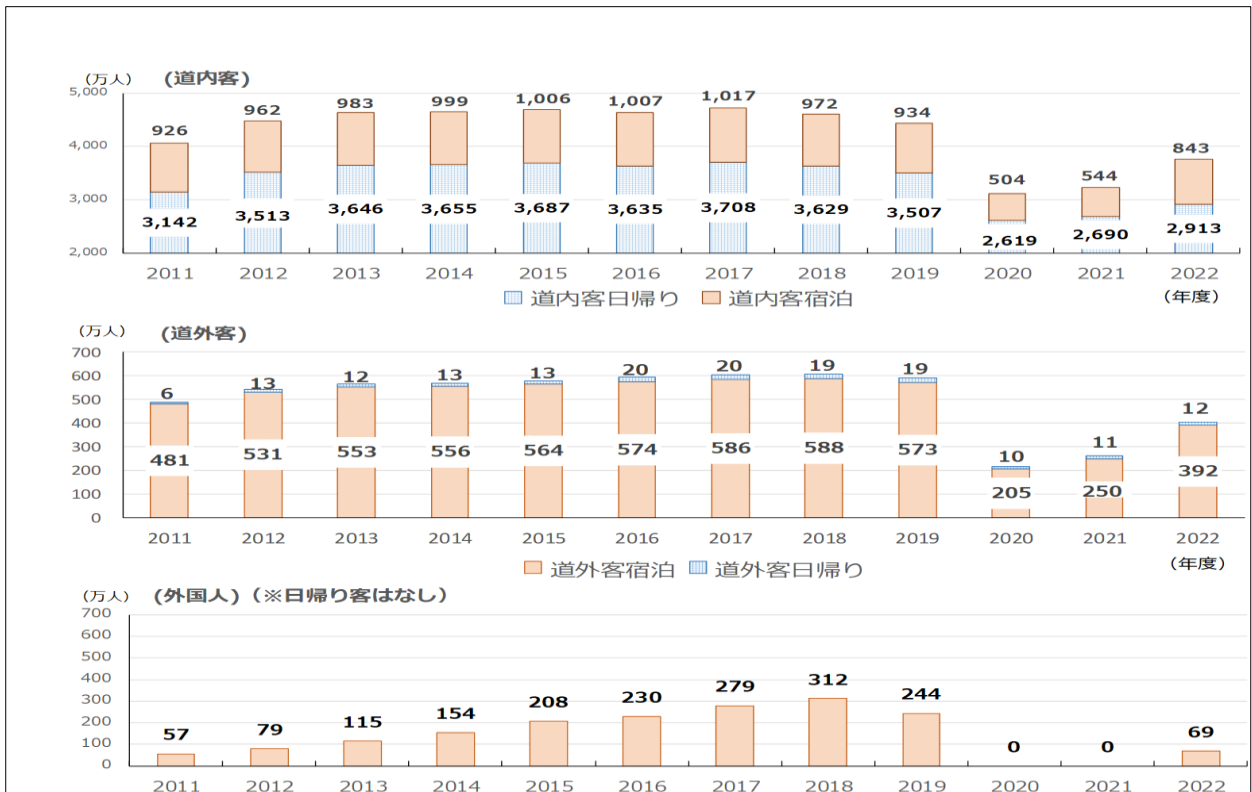


資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

(2) 日帰り客・宿泊客の推移

2022年度の日帰り客・宿泊客別の観光入込客数は、「道内客 日帰り」が前年度比8.3%増の2,913万人、「道内客 宿泊」が前年度比55.0%増の843万人、「道外客 日帰り」が前年度比9.1%増の12万人、「道外客 宿泊」が前年度比56.8%増の392万人となった。

図表 1-3 日帰り客・宿泊客別の推移



資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

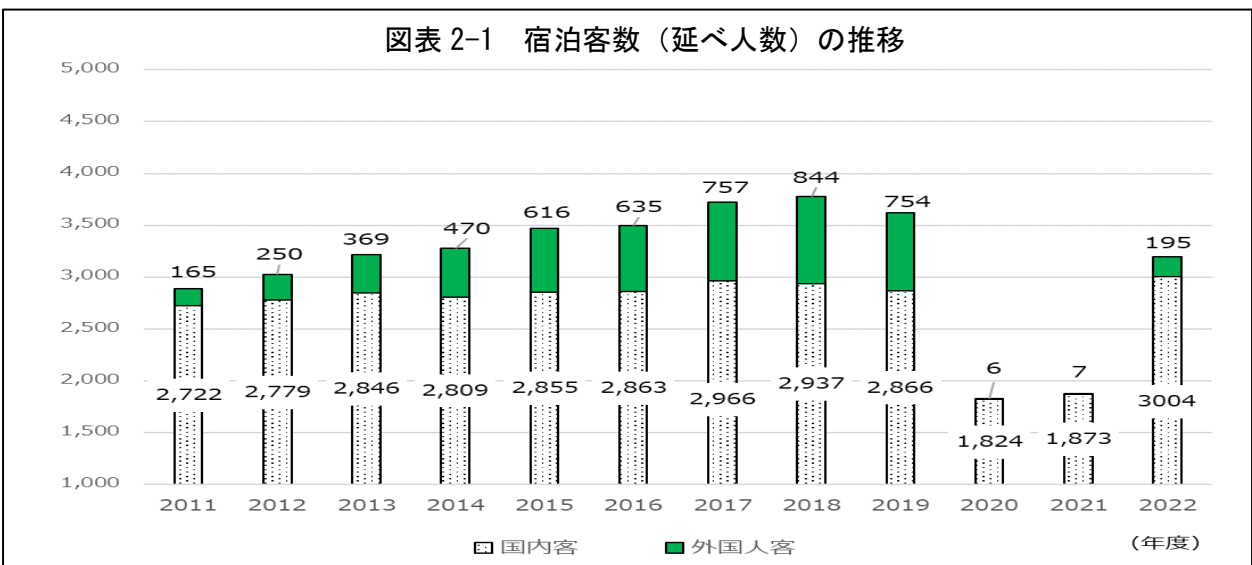
2 宿泊客延べ数

(1) 全体推移

市町村における宿泊客数を合計した総数（延べ宿泊数）は、近年増加基調で推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した。その後回復し、2022年度の宿泊客延べ数は3,199万人泊で、前年度に比べて71.7%と大幅に増加した。

また、外国人客は195万人泊であった。

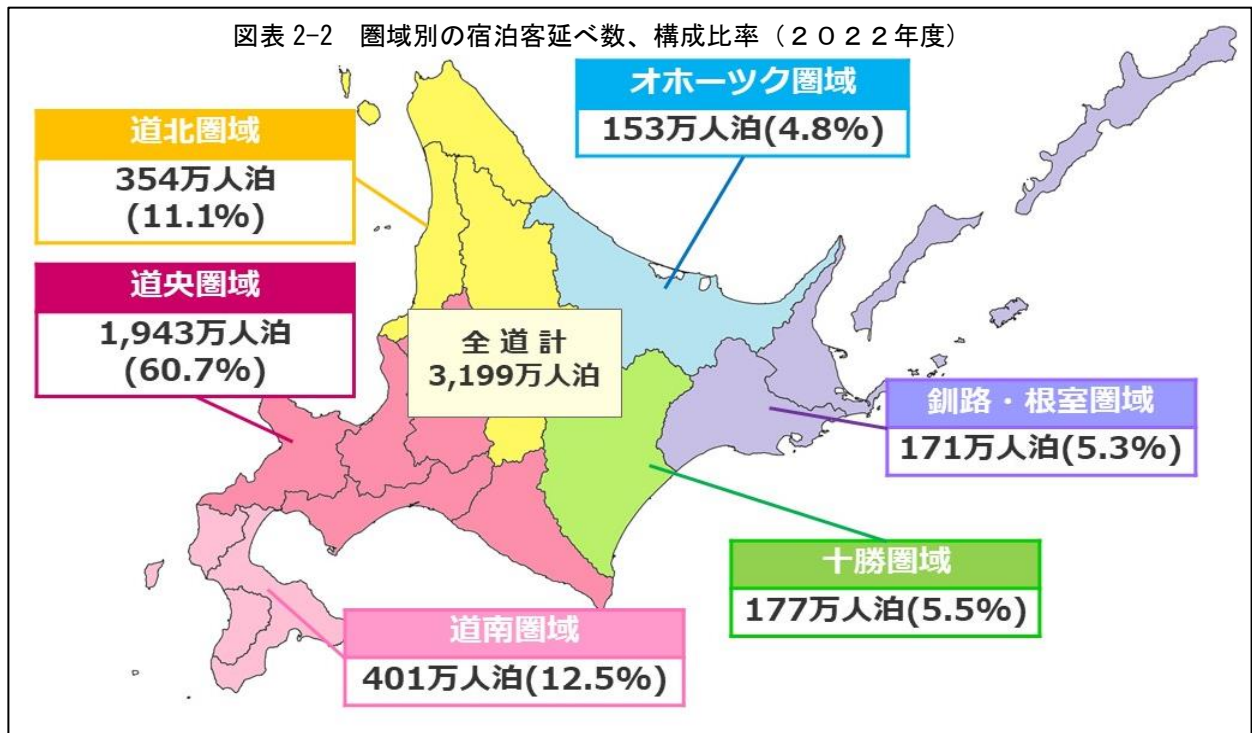
図表 2-1 宿泊客数（延べ人数）の推移



資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

(2) 圏域別の状況

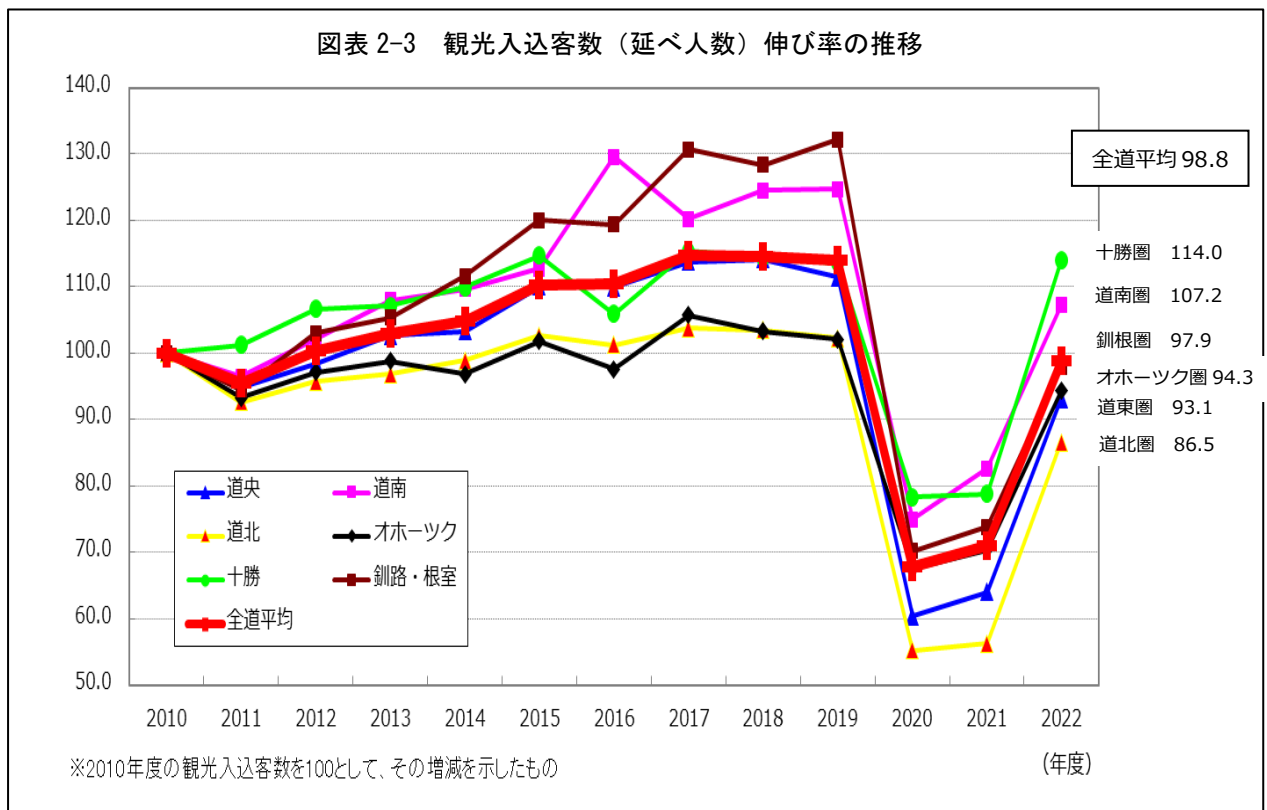
圏域別の宿泊客延べ数では、2022年度は、「道央圏域」が1,943万人泊と全道の約6割が集中しており、地域間で大きな偏が見られる。



資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

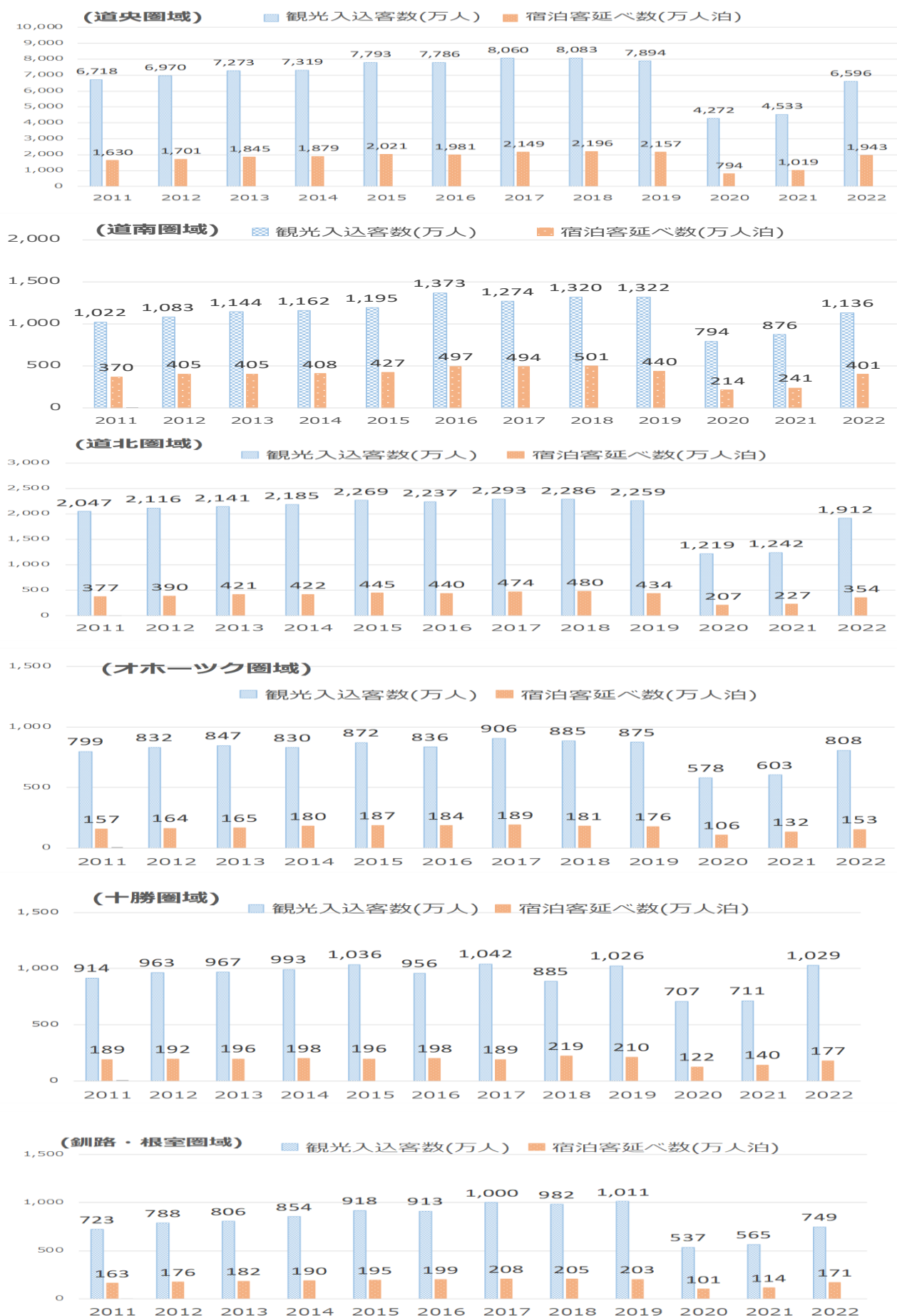
(3) 圏域別宿泊延べ人数の伸び率の推移

近年の圏域別観光入込客数（延べ人数）伸び率の推移では、コロナ禍を経て、2022年度は、全圏域で前年度に比べて増加しており、2010年度比と比べても全道平均でほぼ同水準となった。



資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

図表 2-4 圏域別入込客数・宿泊客延べ数の推移

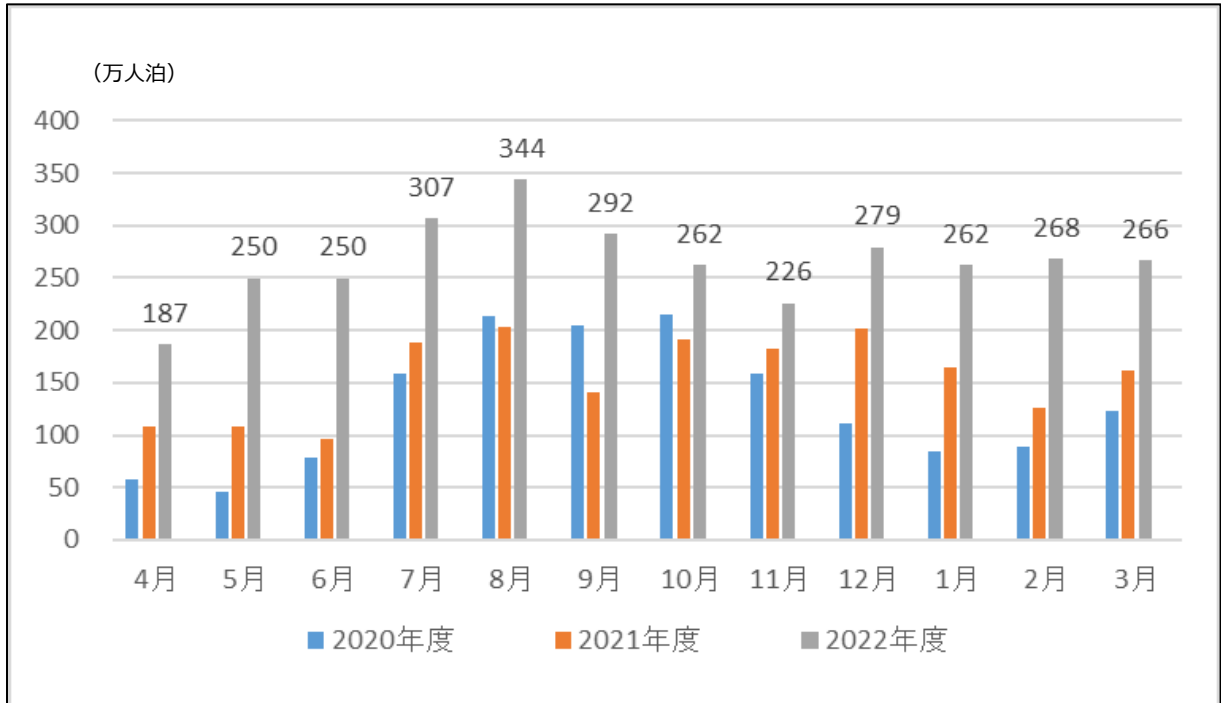


資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

(4) 月別宿泊客延べ数

本道の観光は、例年、7月～8月の夏季と1月～2月の冬季の二つのピークがある。2022年度は道の「Hokkaido LOVE 割」や、市町村独自の宿泊助成キャンペーン等による効果もあり、夏季では8月、冬季では12月にピークを迎えた。

図表 2-5 月別宿泊客延べ数

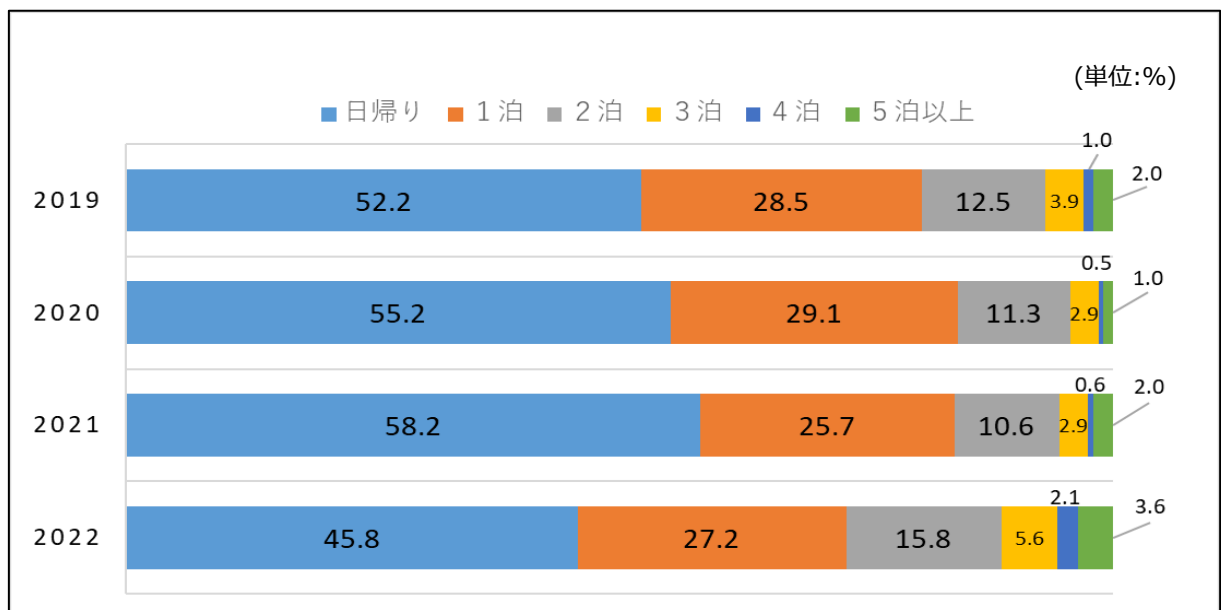


資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

(5) 宿泊数の割合

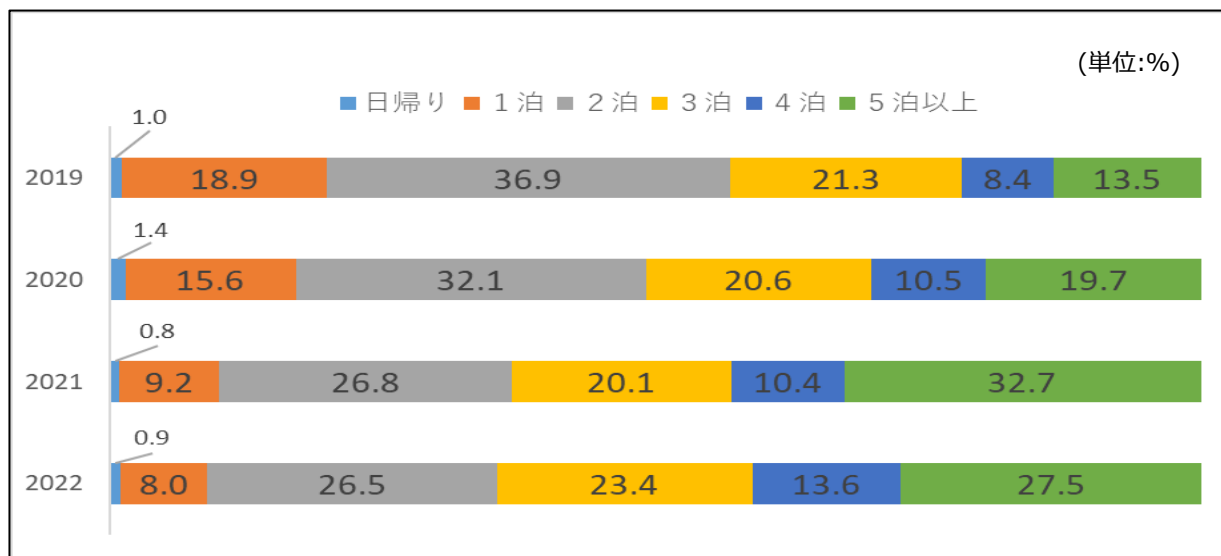
2022年度の日帰り・宿泊日数の割合は、前年度に比べ道内客では「日帰り」が減少した以外は、宿泊者の割合が増加した。道外客は前年度に比べ、「3泊」「4泊」の割合が増加した。

図表 2-6 道内客宿泊数の割合



資料：(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

図表 2-7 道外客宿泊数の割合



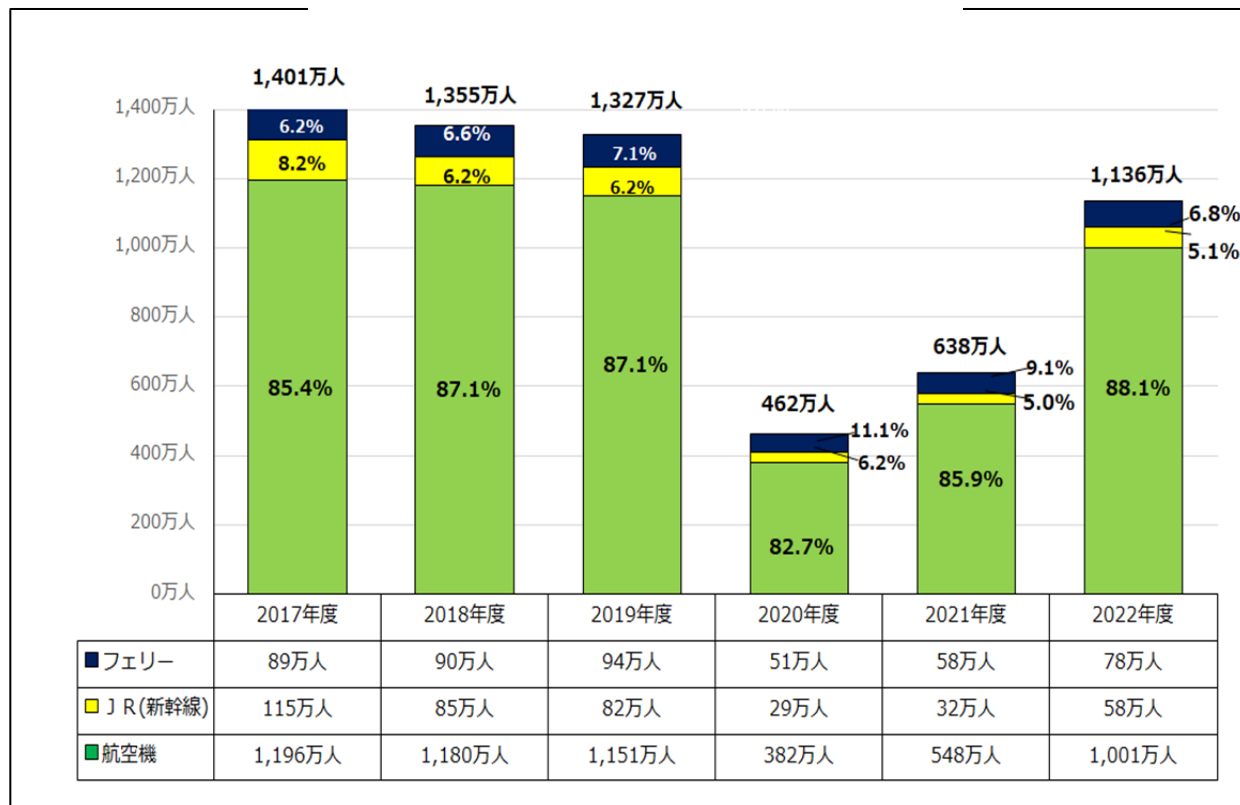
資料：(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

3 交通機関別の状況

(1) 交通機関別来道者の推移

2022年度の道外から本道を訪れる来道者は、前年度比78.1%増の1,136万人に増加している。なお、利用した交通機関別の割合には、大きな変化は見られなかった。

図表 3-1 交通機関別来道者数(占有率)の推移

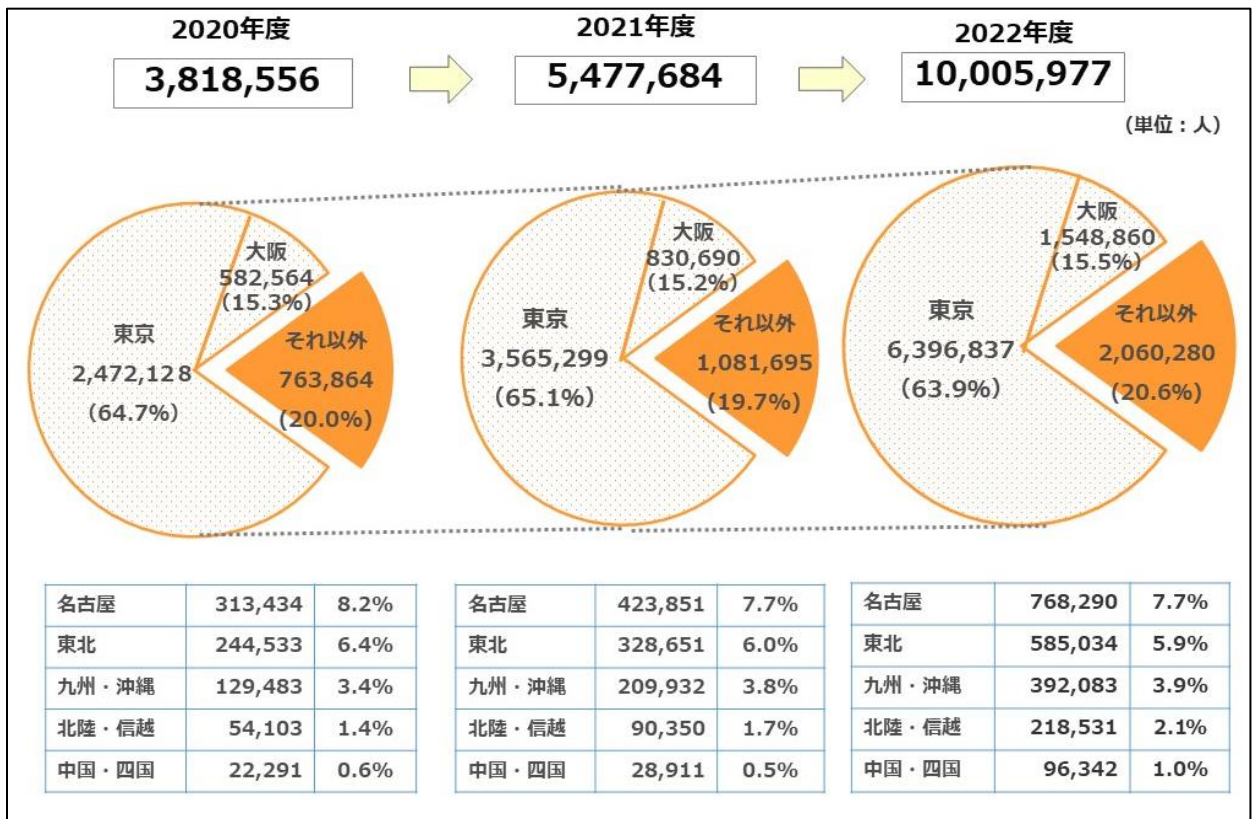


資料：北海道経済部観光局「来道者輸送実績」をもとに作成

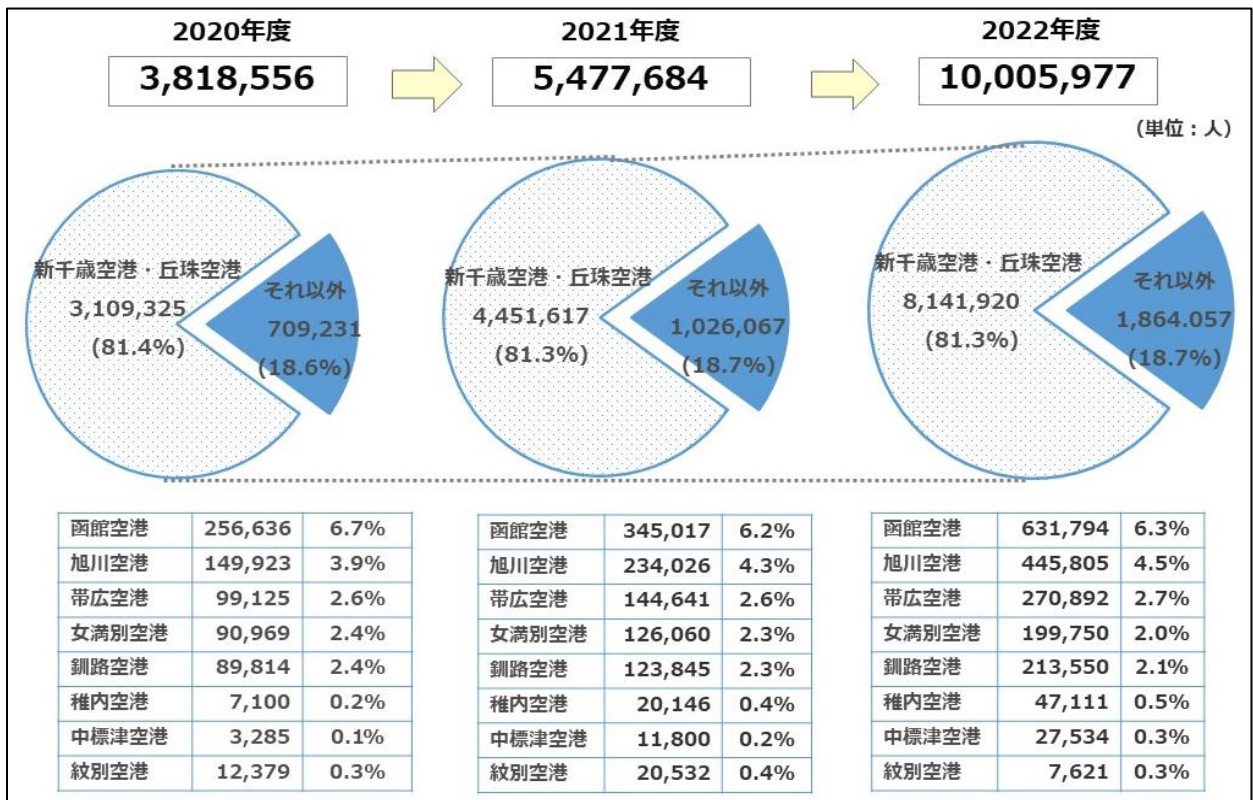
(2) 発着別の来道者の状況

航空機を利用した来道者の出発地別の割合では、2022年度は前年度から大きな変化はなく、東京・大阪からが約8割、到着地別の割合では、「新千歳空港・丘珠空港」が約8割となっている。

図表 3-2 航空機利用による来道者（出発地空港別）



図表 3-3 航空機利用による来道者（到着地空港別）



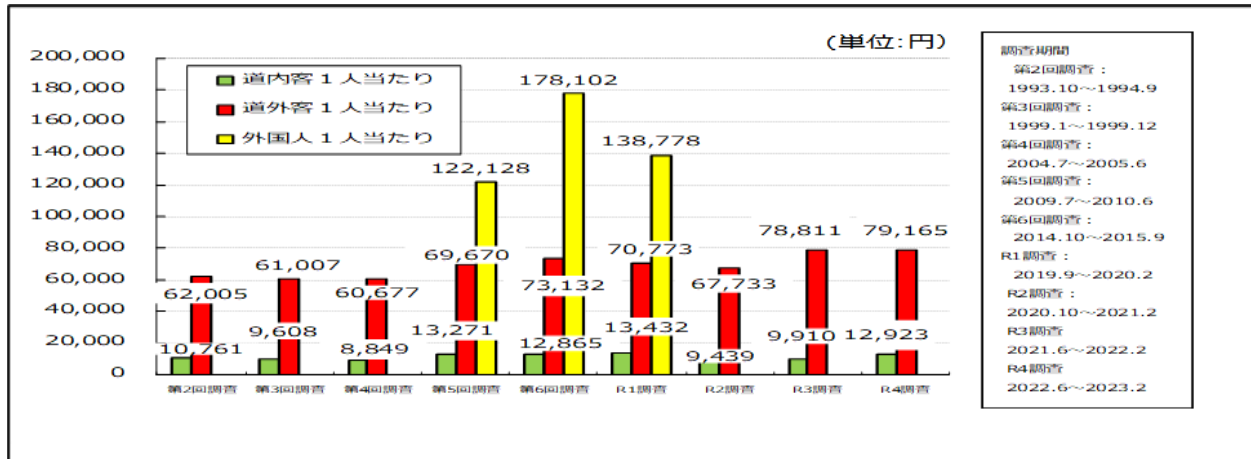
資料：北海道経済部観光局「来道者輸送実績」をもとに作成

4 観光消費額単価

(1) 全体推移

2022年度の観光客が1回の観光行動で消費する金額について、道内客は前年度比30.4%増の12,923円と前回調査から増加し、道外客においても、前年度比0.4%増の79,165円であり、第1回調査以降、最も高い数値となった。なお、外国人の観光消費額については、観光客に対する入国拒否等の措置を講じていたことから、2022年度調査は実施していない。

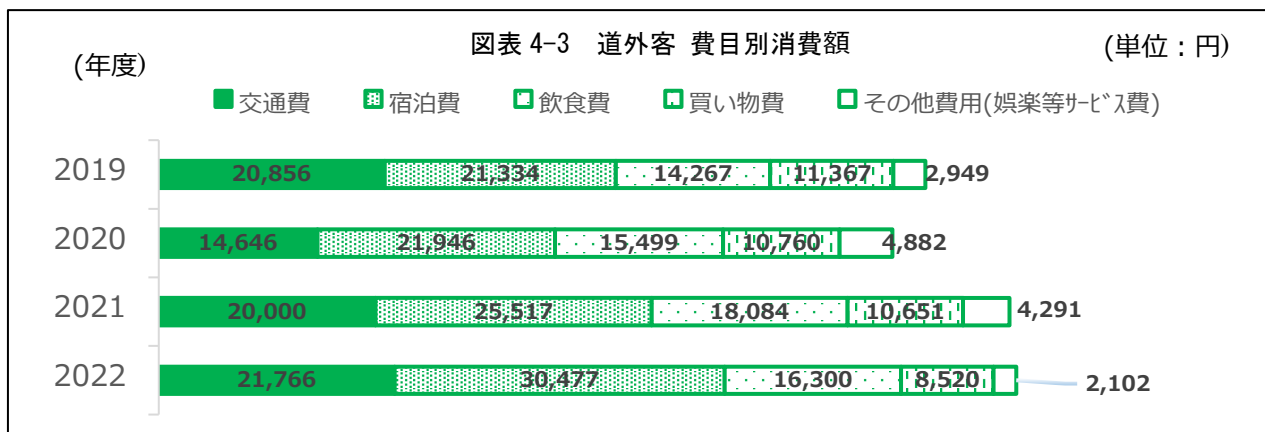
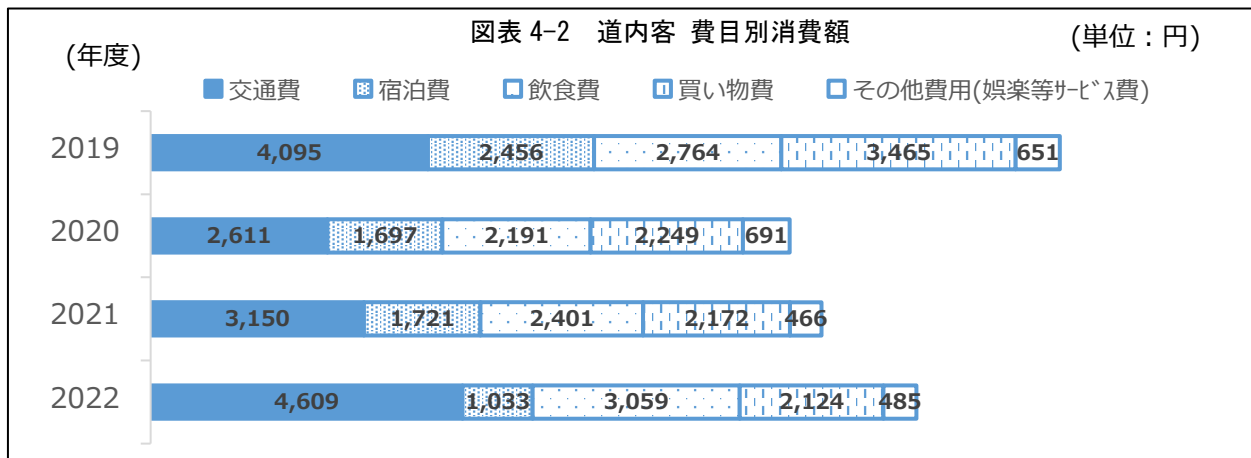
図表 4-1 観光消費額単価



資料：北海道経済部観光局「観光産業経済効果調査(第1～6回調査)」・(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

(2) 費目別消費額の推移

観光客が1回の観光行動で消費する費目別の内訳について、2022年度の道内客は前年度に比べ「交通費」「飲食費」「その他費用(娯楽等サービス費)」で増加したほか、道外客においては同様に、「交通費」「宿泊費」で増加した。

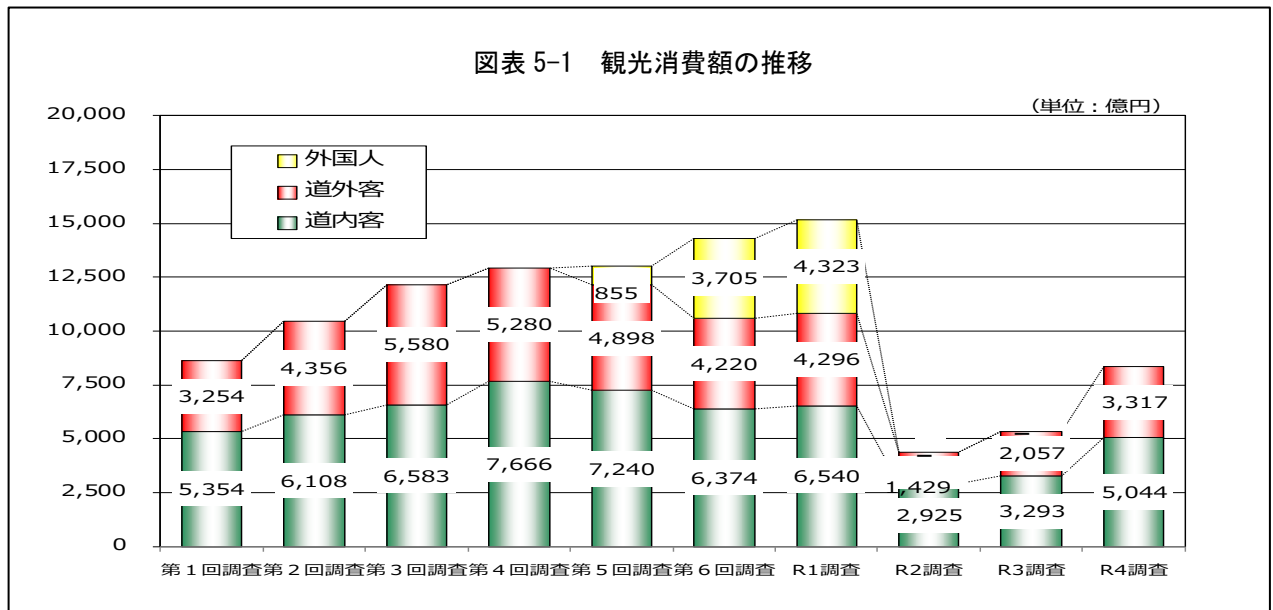


資料：(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

5 観光総消費額

(1) 全体推移

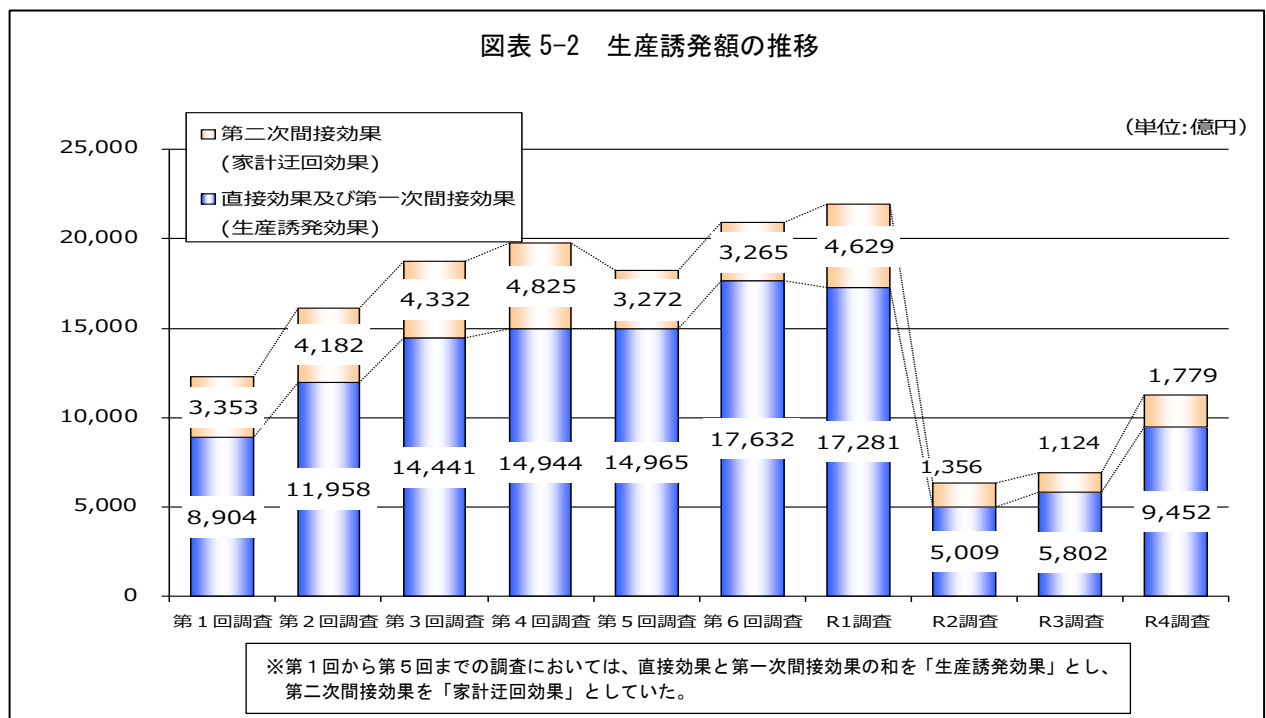
2022年度の観光総消費額は、道内客が前年度比53.1%増の5,044億円、道外客は前年度比61.0%増の3,317億円となった。また、外国人については、観光客に対する入国拒否等の措置を講じていたことから、調査を実施していない。



資料：北海道経済部観光局「観光産業経済効果調査(第1～6回調査)」・(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

(2) 経済波及効果(生産誘発額)

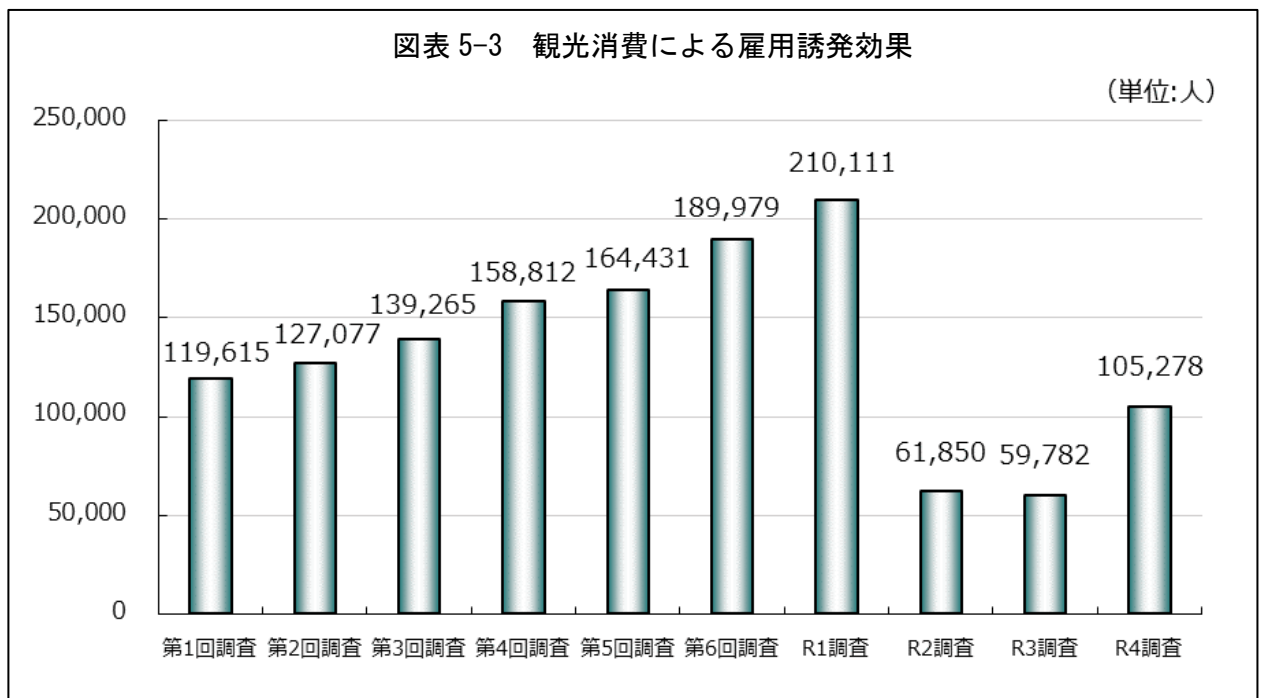
経済波及効果(生産誘発額)とは、ある産業部門(本件では観光関連産業部門)に消費や投資(最終需要)が発生した時に、次々と他産業への生産の誘発が広がっていくことであり、この考えに基づき、R4調査(2022年度)による観光消費がもたらす生産誘発額は、前年度比62.1%増の1兆1,230億円と推計され、このうち観光消費により生じる直接効果と第一次間接効果の和が9,452億円、第二次間接効果が1,779億円と推計された。



資料：北海道経済部観光局「観光産業経済効果調査(第1～6回調査)」・(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

(3) 雇用誘発効果

雇用誘発効果は、消費や投資（最終需要）により誘発された雇用者数で、2022年度の観光消費による生産誘発額1兆1,230億円は、約10万人の雇用効果を生み出すものと推計され、前年度比76.1%と大きく増加した。



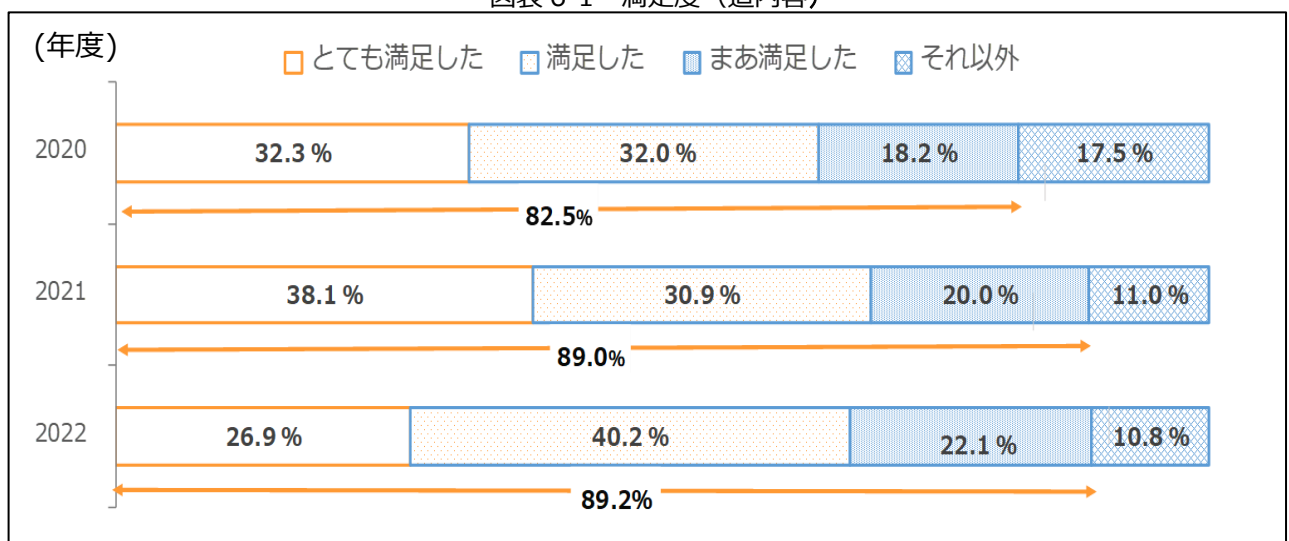
資料：北海道経済部観光局「観光産業経済効果調査(第1～6回調査)」・(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

6 満足度

(1) 全体推移

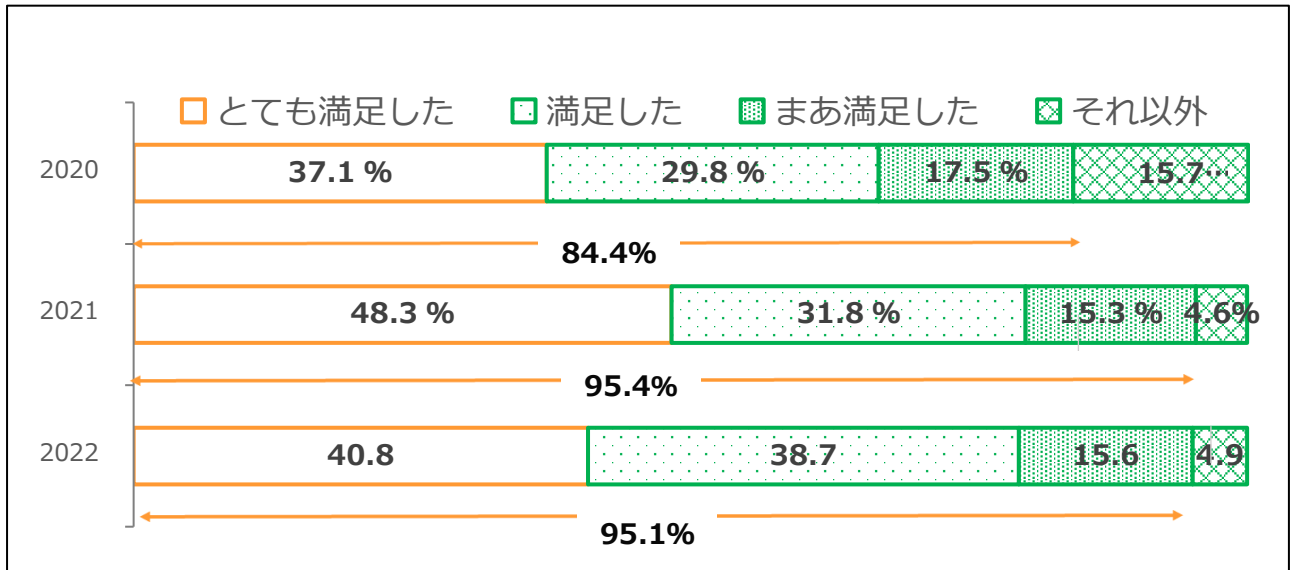
観光・旅行全体に対する「とても満足した」、「満足した」、「まあ満足した」と回答した割合の合計は、2022年度では道内客、道外客ともに9割を占めた。また、「とても満足した」に限ると、道内客で26.9%と前年に比べ11.2ポイント減少し、道外客は40.8%と前年に比べ7.5ポイント減少した。

図表 6-1 満足度 (道内客)



資料：(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

図表 6-2 満足度（道外客）



資料：（公社）北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

(2) 項目別の満足度

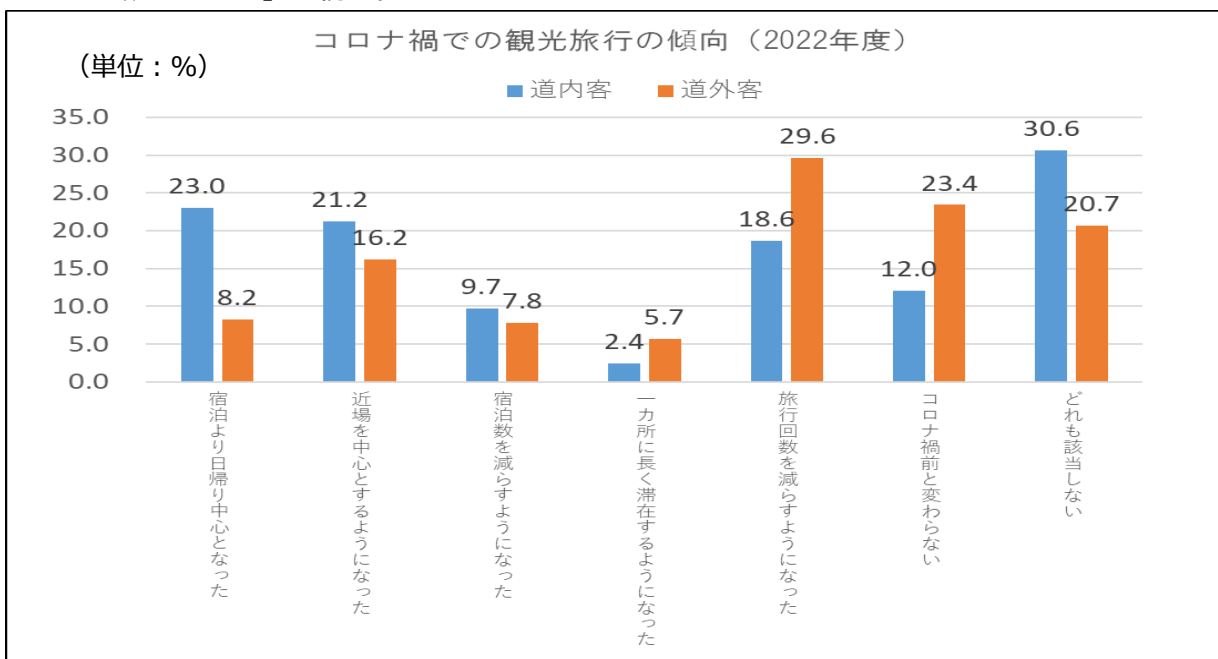
2022年度の満足度を項目別に見ると、道内客では「とても満足した」項目のうち割合が最も高いのは「景観」で28.3%、道外客では「とても満足した」項目のうち割合が最も高いものも「景観」で42.4%である。

質問項目	分類	2022年度（単位：%）		
		とても満足した	満足した	まあ満足した
観光・旅行全体について	道内客	26.9	40.2	22.1
	道外客	40.8	38.7	15.6
各観光地での食事について	道内客	24.9	41.3	19.8
	道外客	38.5	38.9	16.3
おみやげ品について	道内客	21.4	31.9	17.2
	道外客	31.3	34.4	18.9
宿泊施設について	道内客	25.0	41.7	16.8
	道外客	32.5	37.5	17.7
観光施設について	道内客	23.5	33.3	17.4
	道外客	32.3	36.5	19.9
交通機関について	道内客	19.8	29.3	16.0
	道外客	26.8	34.1	19.7
Wi-Fi設備環境について	道内客	14.5	23.4	15.1
	道外客	22.0	28.2	19.7
景観について	道内客	28.3	39.2	18.5
	道外客	42.4	36.9	13.3
温泉（入浴施設）について	道内客	20.4	29.7	13.0
	道外客	32.0	33.9	14.5
アウトドアアクティビティについて	道内客	15.5	23.9	10.2
	道外客	24.8	24.0	9.7
おもてなしについて	道内客	25.3	38.4	17.9
	道外客	35.4	39.1	15.9

資料：（公社）北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

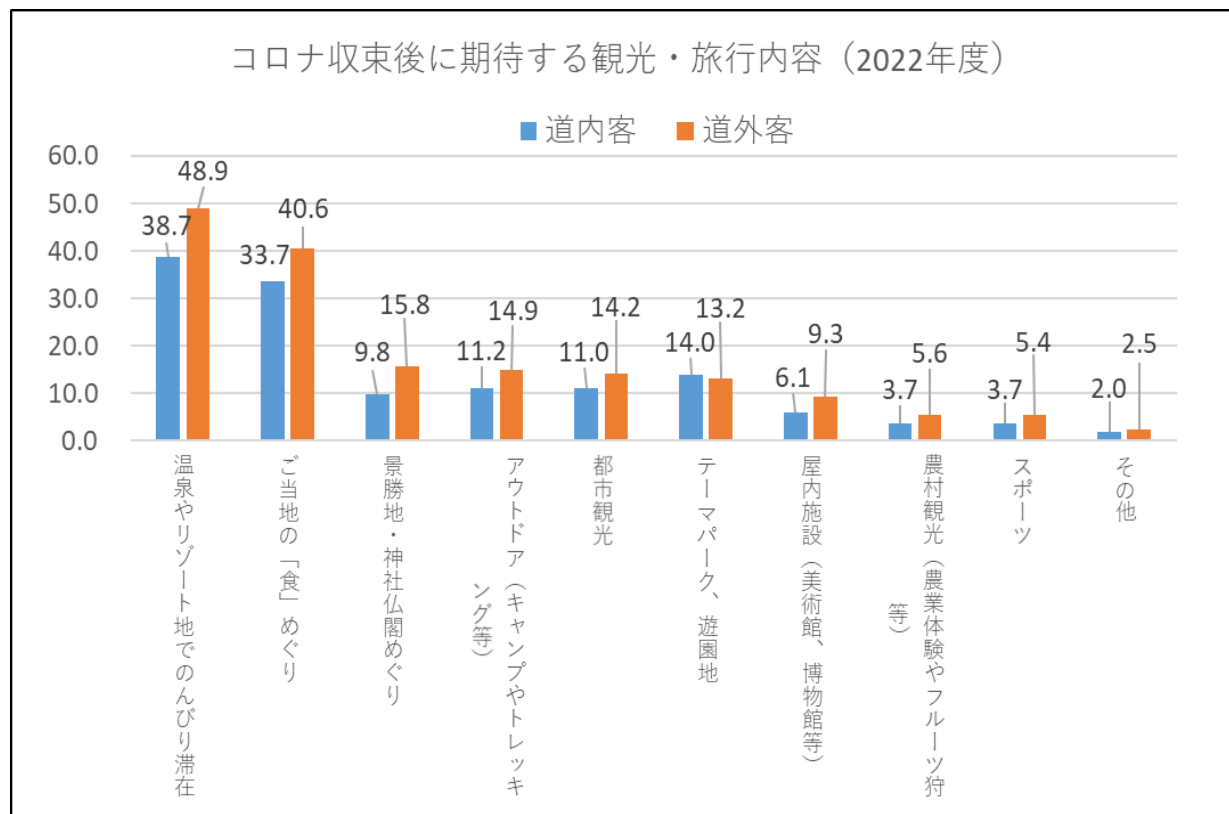
(3) コロナ禍での観光旅行

コロナ禍での観光旅行の傾向について、道内容の割合が一番高いのは「どれも該当しない」であり、以下「宿泊より日帰り中心となった」、「近場を中心とするようになった」と続く。道外客の割合が一番高いのは「旅行回数を減らすようになった」であり、以下「コロナ禍前と変わらない」、「どれも該当しない」と続く。



資料：（公社）北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

コロナ収束後に期待する観光として、道内容・道外客とも「温泉やリゾート地でのんびり滞在」「ご当地の食めぐり」の割合が高くなっている。



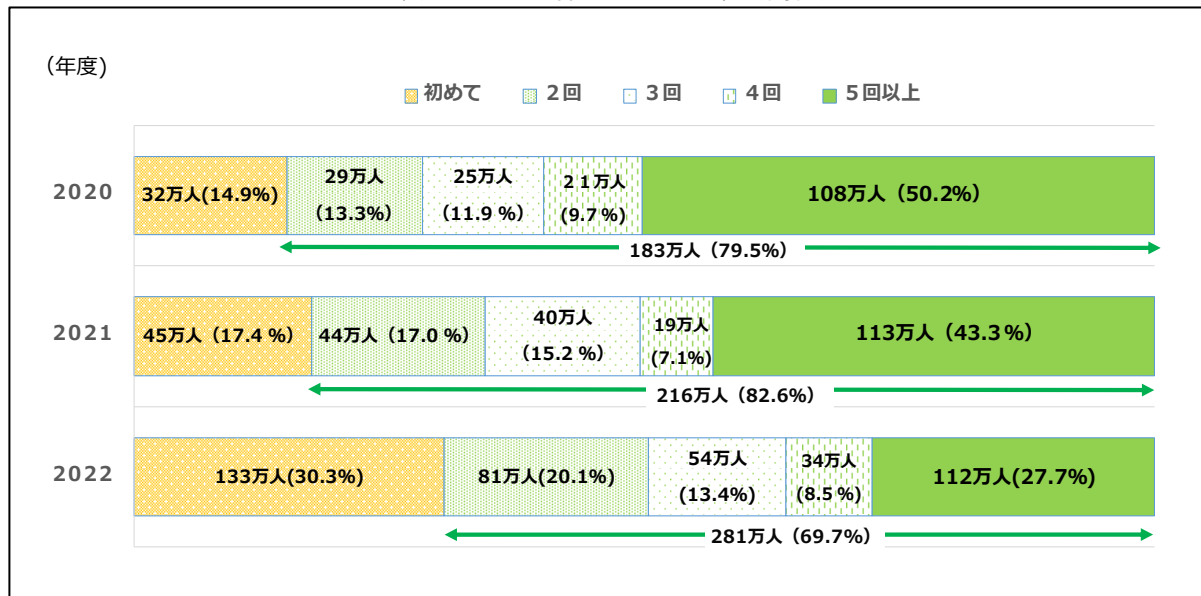
資料：（公社）北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

7 リピーターの状況

(1) 全体推移

本道を訪れた道外客のうち、過去に本道を訪れた経験のあるリピーター（2回～5回以上）は、2022年度は281万人で全体の69.7%を占めているほか、5回以上の来道経験を持つ道外客は27.7%となっている。

図表 7-1 道外客リピーター数（割合）

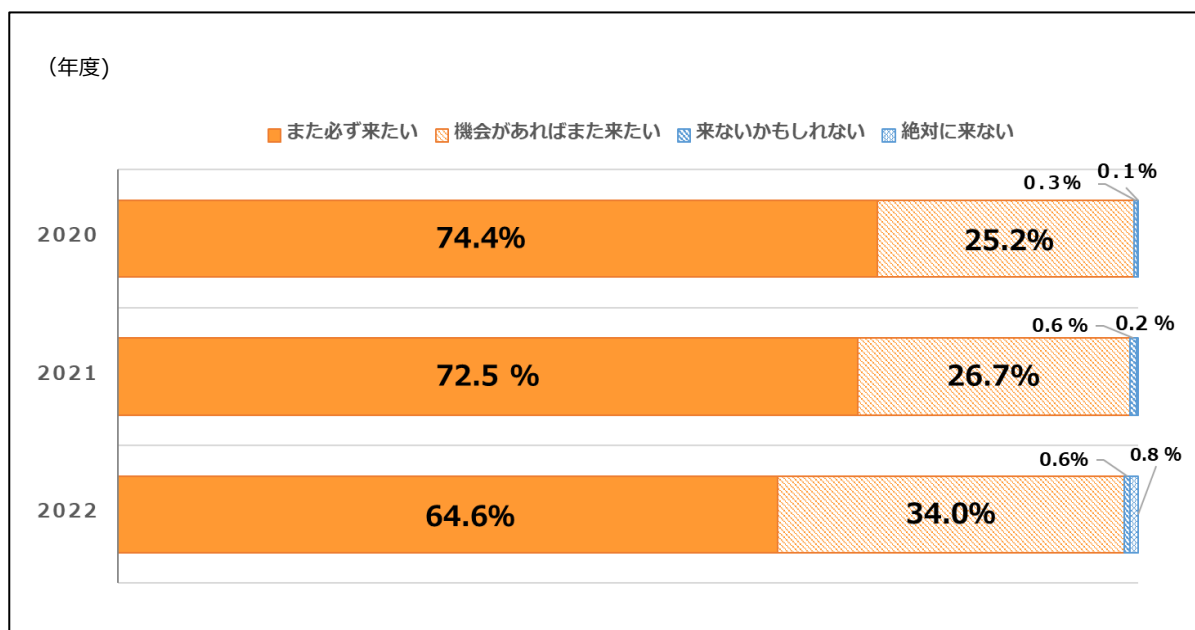


資料：（公社）北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

(2) 再来訪（リピート）意向

道外客の北海道への再来訪意向については、2020年度から2022年度にかけて、「また必ず来たい」、「機会があればまた来たい」の合計は約99%と非常に高い数値となっている。

図表 7-2 再来訪意向（道外客）の割合

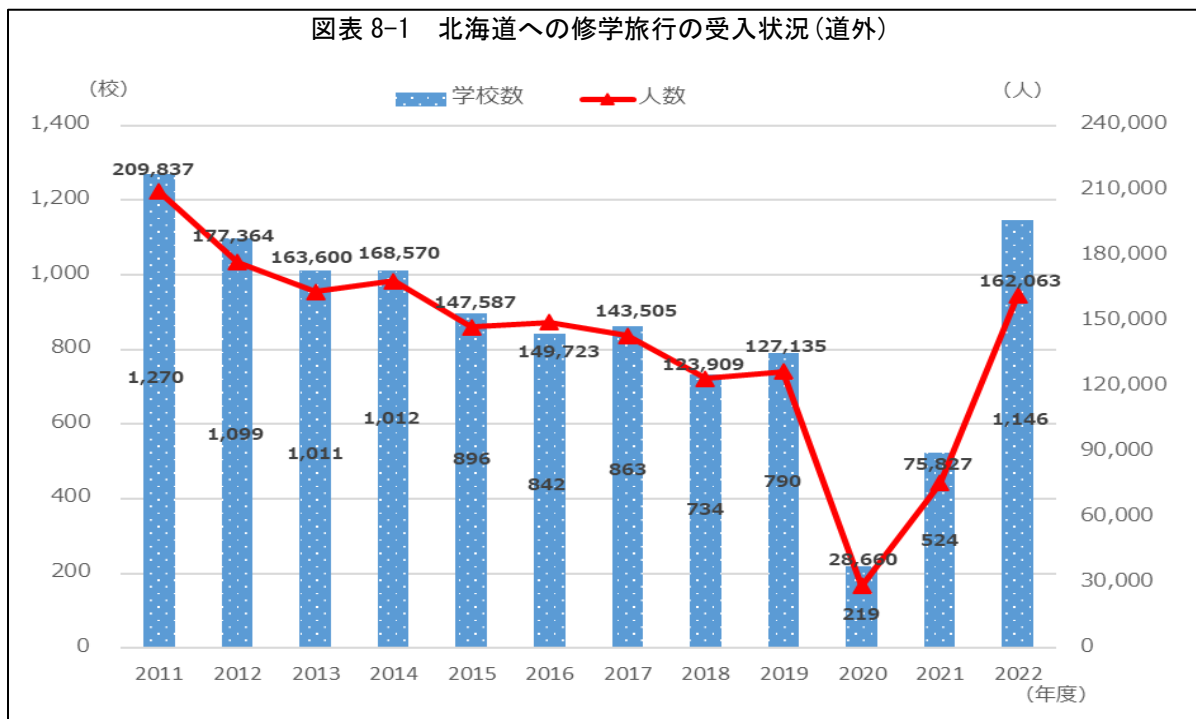


資料：（公社）北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

8 その他

(1) 修学旅行の受入状況

北海道への修学旅行の受入実績は、2022年度は小中学校・高校・その他の合計で前年度比118%増の1,146校、人数は前年度比113%増の16万2,063人となり、昨年度に引き続き、学校数、人数ともに大きく増加している。



資料：(公社)北海道観光振興機構調べ

(2) 宿泊業の状況

北海道で旅館業法の許可を受けているホテル・旅館、簡易宿所は、2022年度末現在で5,697施設、定員は35万3,853人となっており、前年度と比較すると、施設数は2.9%増、定員数は1.6%増となっている。

なお、2018年6月から住宅宿泊事業法が施行され、住宅宿泊事業(民泊)の届出住宅数は、1,958件(札幌市所管分を含む)となっており、前年度比0.1%増となっている。

図表 8-2 宿泊施設数と定員数の推移

(単位:軒、人)

区分		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	22年度/21年度
ホテル・旅館	施設数	2,936	2,897	2,868	2,863	2,877	2,904	2,894	99.7%
	定員	278,740	276,333	285,845	293,994	297,999	303,256	307,516	101.4%
うち都市部	施設数	825	811	812	869	901	926	1,219	131.6%
	定員	121,280	123,130	128,679	137,555	142,554	147,179	173,189	117.7%
簡易宿所	施設数	695	702	2,178	2,375	2,471	2,633	2,803	106.5%
	定員	134,645	136,708	40,232	43,140	43,322	44,887	46,336	103.2%
うち都市部	施設数	229	268	340	391	393	397	763	192.2%
	定員	7,095	8,194	9,168	10,586	10,474	9,681	15,178	156.8%
合計	施設数	3,631	3,599	5,046	5,238	5,348	5,537	5,697	102.9%
	定員	413,385	413,041	326,077	337,134	341,321	348,143	353,853	101.6%
うち都市部	施設数	1,054	1,079	1,152	1,260	1,294	1,323	1,982	149.8%
	定員	128,375	131,324	137,847	148,141	153,028	156,860	188,367	120.1%
民泊	施設数	-	-	1,968	2,926	2,242	1,957	1,958	100.1%
	うち札幌市	-	-	1,561	2,307	1,643	1,352	1,293	95.6%

※都市部：札幌市、小樽市、函館市、旭川市、網走市、帯広市、釧路市の7市

資料：北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課・経済部観光局調べ

(3) 旅行業の状況

旅行業法に基づき、北海道内に主たる営業所がある旅行業者の登録数は、2022年度末現在、558件となっており、前年度比6.8%増加している。旅行サービス手配業が2018年1月から新設されており、登録数は増加傾向となっている。

図表 8-3 道内に主たる営業所のある旅行業者

登録区分	登録行政庁	業務の範囲	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
第1種	観光庁長官	・海外・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	19	17	15	15
第2種	北海道知事	・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	131	129	119	120
第3種	北海道知事	・国内（区域限定）の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	161	161	159	154
地域限定	北海道知事	・国内（区域限定）の募集型企画旅行 ・国内（区域限定）の受注型企画旅行 ・国内（区域限定）の手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	17	21	25	35
代理業	北海道知事	・受託契約に基づく代理販売	31	29	27	24
旅行サービス手配業	北海道知事	・旅行業者のため、運送等サービスなどの媒介など	140	164	177	210
計			499	521	522	558

※各年度、3月末現在

資料：国土交通省北海道運輸局・北海道経済部観光局調べ

旅行サービス手配業は、2018年1月から施行。

(4) 貸切バスの状況

北海道における貸切バス（観光バス）の事業実績について、2022年度は、業者数、走行キロ、輸送人員、車両数ともに前年と比較して大きな差異は生じない。

図表 8-4 貸切バス（観光バス）の状況

（単位：台・千回・千人）

年 度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
業 者 数	263	264	258	261	262	255	238	226	216	209
車 両 数	2,757	2,888	3,003	3,133	3,288	3,271	3,176	2,974	2,701	2,541
走 行 キ ロ	103,515	110,570	105,468	104,379	103,954	100,378	95,086	83,379	26,854	28,445
輸 送 人 員	16,169	18,036	17,443	16,505	16,058	13,603	14,159	12,918	5,803	5,942

資料：国土交通省北海道運輸局調べ

(5) 道内DMOの状況

道内の「登録DMO」及び「候補DMO」登録数は2022年9月末現在、26法人であり、内訳として、「登録DMO」のうち「広域連携」1法人、「地域連携」7法人、「地域」12法人、「候補DMO」のうち「地域連携」2法人、「地域」4法人、合計26法人となっている。

申請区分	登録DMO		候補DMO		合計	
	全国	うち道内	全国	うち道内	全国	うち道内
広域連携	10	1 (公社) 北海道観光振興機構	0	0	10	1
地域連携	108	7 (一社) ぶらの観光協会 (一社) 釧路観光コンベンション協会 (一社) 大雪カムイミントラDMO (一社) 千歳観光連盟 (一社) ニセコプロモーションボード (一社) ひがし北海道自然美への道DMO (株) デスティネーション十勝	10	2 (一社) 稚内観光協会	122	9
地域	164	12 (一社) 小樽観光協会 (特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構 (一社) 岩見沢市観光協会 (一社) 網走市観光協会 (一社) 北海道江差観光みらい機構 (一社) 倶知安観光協会 大雪山ツアーズ(株) (一社) 美瑛町観光協会 (一社) 噴火湾とようら観光協会 (一社) 白老観光協会 十勝川温泉旅館協同組合 (株) karch (一社) 摩周湖観光協会	47	4 (一社) ステイびばい (一社) 赤井川村国際リゾート推進協会 (一社) 北海道三笠観光協会 (特非) 知床斜里町観光協会	188	15
合計	282	20	57	6	339	26

※「登録DMO」及び「候補DMO」

資料：北海道経済部観光局調べ

登録希望者は、観光地域づくり法人形成・確立計画を作成し、観光庁にて「候補DMO」登録申請を行う。

その後、「候補DMO」から事業報告書等を提出し、観光庁から認められた場合は、「登録DMO」として改めて登録される。

- ・ 広域連携：都道府県にまたがる区域を一体とした観光を対象としているもの。
- ・ 地域連携：複数の自治体にまたがる区域を一体とした観光地域を対象としているもの。
- ・ 地域：基礎自治体である単独市町村の区域を一体とした観光地域を対象としているもの。

(6) 国際会議の開催状況

北海道で開催された国際会議の実績は、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、ゼロであったが、2022年度は25件となった

図表 8-6 北海道での国際会議開催状況

(単位:件、人)

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
開催件数	総数	125	119	116	115	3	25
参加者数	総数	66,308	54,111	61,501	53,622	252	13,023
	うち外国人	5,544	8,339	7,000	9,069	79	1,343

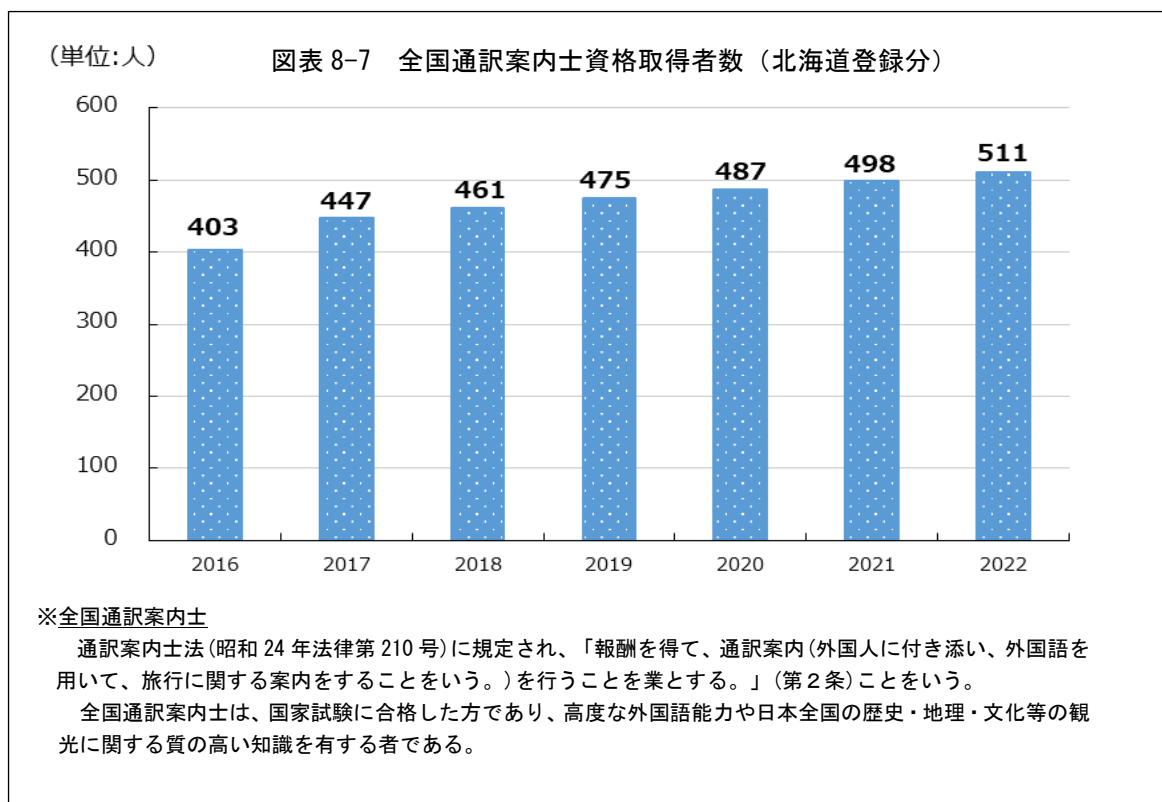
資料：日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」をもとに作成

※以下の①～④を全て満たすものを「国際会議」とする。

- ①主催者：「国際機関・国際団体(各国支部含む)又は「国家機関・国内団体」(各々の定義が明確ではないため、「公共色を帯びていな民間企業」以外は全て。)
- ②参加者総数：50名以上
- ③参加国数：日本を含む3居住国・地域以上
- ④開催期間：1日以上

(7) 全国通訳案内士（北海道登録分）資格取得者数の状況

全国通訳案内士資格取得者数（北海道登録分）は、2022年度末現在、511人であり、資格取得者数の増加傾向が続いている。



資料：北海道経済部観光局調べ

(8) 北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者数の状況

北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者数については、2022年度末現在530人であり2017年度以降、増加傾向が続いている。優良事業者数は25件、マスターガイド資格取得者数は36人であった。

図表 8-8 北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者の状況 (単位:件、人)

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
アウトドアガイド資格取得者数	484	488	512	500	518	530
優良事業者数	21	24	26	29	28	25
マスターガイド資格取得者数	38	38	35	33	32	36

資料：北海道経済部観光局調べ

※アウトドアガイド資格

山岳(夏山・冬山)、自然、キャンプ、ラフティング、トレイルライティングの5つのアウトドア分野のガイドのプロとして北海道知事が認定するガイド。

※優良事業者

アウトドア事業者が、ガイド資格取得者の適正な人員配置、安全対策、備品の整備等、一定の要件を満たしている場合、「北海道アウトドア優良事業者」として、北海道知事が認定する事業者。

※マスターガイド資格

技能、経験及び知識に優れ、後進の指導・育成や地域社会に貢献している者で、かつ、当該分野のガイド等から高い信頼、評価が得られている者を「北海道マスターガイド」として北海道知事が認定するガイド。